

令和5年度 自己評価

学校法人寺西学園 交野幼稚園

1、本園の教育目標

『つよく たくしく ほがらかに』を園訓に、ひとりひとりの子どもの心身の発達をよく見極め、「適切なしつけと体力づくり」に重点をおき、心の通った温かい教育を心がけます。ご家庭と園がしっかり手を携えながら、子どもたちの成長を共に支え、共に喜ぶたいと考えます。

2、今年度の具体的な目標や計画

- 1、子育て支援の充実
- 2、「体育あそび」の活用

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
1、子育て支援の充実	・新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行したといえ、適切な感染症対策に努め、子育て親子が安心安全に遊べる場、見知らぬ親同士が繋がれる場の提供を職員間でよく話し合い、様々なアイデアを出し合いながら実施した。 ・既に行っていた地域の子育て家庭への支援をさらに充実させ、実施回数を増やし、園庭のみならず「プレイルーム」を設置、季節や天候を問わず、保育室で快適に遊べる環境を整えた。また「えほんのおへや」として絵本の貸出も行い、回を追うごとに利用者が増えている。
2、「体育あそび」の活用	・幼児期は身体的基础ができあがる大事な時期、園では楽しく「身体を動かす」園庭遊びの時間を確保している。リレーやドッチボールなど全学年を通して遊ぶ姿が見られた。 ・従来から継続している専門講師による「体育あそび」では、昨年度に引き続き、「体幹を鍛える」運動を多く取り入れた。

4、評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- 1、「子育て支援」では、回数を増やし、遊びのメニュー、絵本の貸出他、新しい取り組みを数々行ったこと、またInstagramや公共施設でのポスター掲示等、様々な広報活動を行ったことにより多くの参加者を得られるようになった。まず交野幼稚園に一度来ていただくことを目標に掲げ、今年度それは一定達せられたと考える。
- 2、「体育あそびの活用」では、園庭の自由遊びの中でしっかり身体を動かし、講師の指導で適切に体幹を鍛えたことにより、大きなケガが少なくなったことを実感している。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
1、私学助成園からの転換	少子化の流れは止まらず、将来的に「私学助成園」として事業継続が困難との法人理事会の決定により、次年度から本園は「施設型給付幼稚園」へ移行することになった。法人としては苦渋の決定であるが、園として決定を真摯に受け止め、決して「教育の質」を落とすことなく、粛々と手続きを進めていきたい。
2、子育て支援のさらなる充実	昨年度に引き続き、子育て支援のさらなる充実に努めたい。地域の未就園児の安心で安全な遊び場所というだけでなく、子育てなどの悩みを気軽に相談できる、保護者にとっての「ほっとステーション」を目指したい。

6、学校関係者の評価

教育の質を維持し、保護者との信頼も良好で、教員一人ひとりの努力に感謝するものである。しかしながら園児数減少は深刻であり、次年度「施設型給付幼稚園」への移行はやむなしと考えざるを得ないが、園児、保護者へマイナスの影響がないようお願いしたい。

学校関係者評価委員名簿

学校法人 寺西学園

交野幼稚園

澤井 暁美

学校法人 幼稚園園長

古川 亘

近隣社会福祉法人 認定こども園園長

近藤 陽子

近隣社会福祉法人 認定こども園職員
地域貢献支援員（スマイルサポーター）

古川 要

近隣社会福祉法人 保育園園長

田中 淑子

近隣社会福祉法人 保育園職員
地域貢献支援員（スマイルサポーター）